

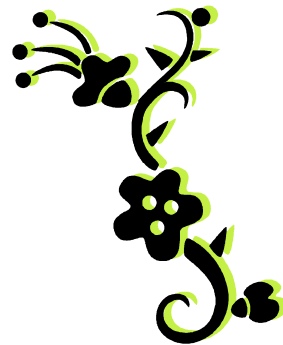
# おばあちゃん、葉っぱで年収 1,000 万円

～徳島県上勝町の葉っぱビジネス～

人口約 2,000 人の徳島県上勝町は、高齢比率(全人口に占める 65 歳以上の割合)が約 49%という、将来の日本の縮図のようなまちです。1970 年代までは、みかんと林業、建設業が主な産業で、国内の産地間競争や外国産との競争で衰退の道をたどっていました。

しかし現在では、町内で取れる葉っぱや花、山菜などは「彩(いろどり)」というブランド名で農協から全国の市場に出荷され、葉っぱビジネスとして全国的に認知されています。

これらの葉っぱや花などは、主に季節感を大事にする日本料理に添えられる「つまもの」として使われており、2009 年現在、取扱品目 320 種類、年間 3 億円の売上高になっています。



「彩」の特徴は、出荷する農家一人ひとりが事業主であり経営者であるということです。各農家は、町内にある第 3 セクター「株式会社いろどり」から、マーケティングや営業・企画・売り込みなどを行うための情報を入手しながら、そのとき必要とされる「葉っぱ」を出荷します。

そして、その出荷を担っているのが、年金を受給している平均年齢 70 歳を超える「おばあちゃん・おじいちゃん」世代なのです。

そのお年寄りたちは、光ファイバーでインターネットに接続した専用パソコンを自宅で操作しています。POS システムを使って出荷調整をするのですが、ほとんどのお年寄りが 1 日に 3 回はパソコンで市場の状況をチェックしています。

このようにして、平均年収 130 万円、多い人で月に 100 万円、年間 1,000 万円以上の収入になっています。発想の転換によって、お年寄りに活躍の場を見いだす新しいビジネスモデルとして、全国から注目されています。